

計画プロセスはユーザーと一緒にすすめる

施設竣工前から近隣住民、将来の利用者、事業者が参加できるイベントを現場で行い、施設建設に参加し、副次的に関わりを持つことで、施設への愛着の増加と施設への理解を深めると同時に、将来の利用者への広報につなげます。

実施する理由・背景 **いろいろな人からの理解と共感を得ることが大切**

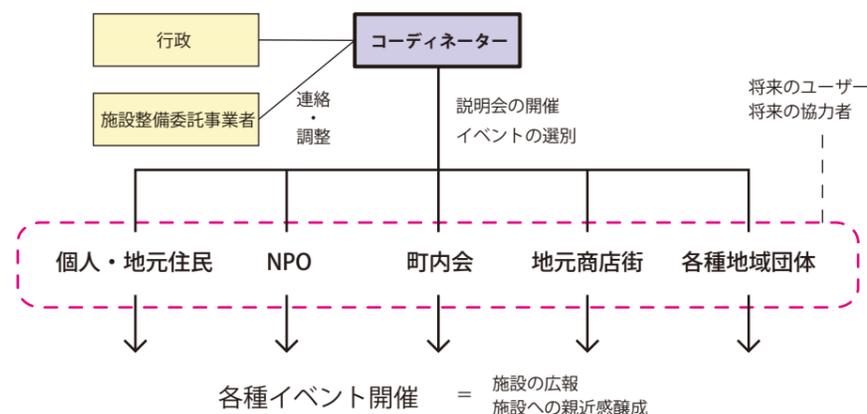
公共性のある施設の運営をスムーズに行うには、様々なステークホルダーの理解と共感が必要ですが、建設企画段階から多方面からの意見を汲み取り反映させるには時間と多大な労力が必要となり、現実的には困難を伴います。そこで、施設の具体像が出来上がった時点で市民や事業者参加型のイベントを現場で行うことにより、参加者が施設自体を身近に感じ施設の理解を深められます。将来の利用者への効果的な広報や利用者の SNS を通じた 2 次的な広報にもつなげられるイベントを開催することが重要です。

具体的な内容 **体を動かして様々な世代が楽しめるイベントを**

実施するイベントは、会議のような話し合いの場をつくるのではなく、現場で体を動かし様々な世代が楽しめるようなものを行います。例えば、あるスペースのペンキ塗りや、植樹のような体育会系イベントから、オープニング時に飾り付けるオーナメントづくりなどです。また施設オープン後も色々な団体とイベントを行う枠組みをつくります。

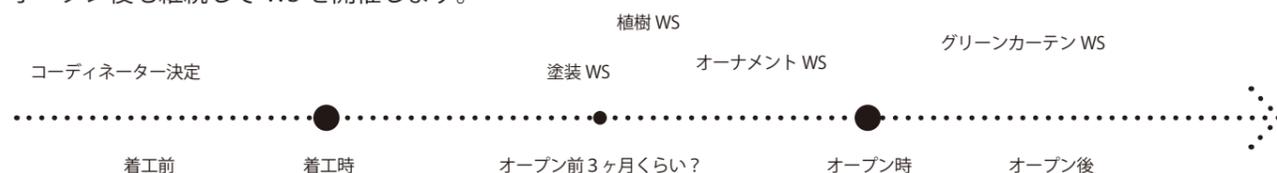
実施体制 **イベントを運営するコーディネーターをつくろう**

様々なワークショップを開催しますので、それらを 1 元的にまとめるコーディネーター（組織）が必要です。当コーディネーターは施設の目的や趣旨を深く理解していなければなりません。そのためには、施設運営の企画段階から議論に参加する必要があります。



スケジュール **まず最初にコーディネーターを選定します**

施設オープン前にコーディネーターの選定、オープン前から各 WS を内容にあった時期に企画実施していきます。オープン後も継続して WS を開催します。



参考事例



出典：コミュニティスペース umbrella (広島県福山市)

DIY ワークショップの開催

小学校の部分的なペンキ塗りなど。プロのコーディネーターと一緒に DIY 感覚で初心者でも参加しやすいイベント。後に形として残るものであり、施設への愛着が強まります。



出典：ボタンづくりワークショップ (小石川マルシェ内)

飾り付けワークショップの開催

体力のない子どもや女性、シニアでも楽しめるような、オーナメントづくりワークショップ。実際に施設オープンの際に部分的に装飾に使うなどを想定します。



出典：月影小学校グリーンカーテン (新潟県上越市)

植樹やグリーンカーテンの委託

敷地内に植樹コーナーや園芸コーナーを設けて、環境ボランティア団体などに協力してもらい木や花を植えます。年単位で別の団体へ委託するなど多くの団体に利用してもらえるような工夫を行います。